

春日井に集う「地域学」～関東学・東海学・飛鳥学・京都学・日本海学～

■第一部 東海地域、の研究成果(美濃編)

〈東山道と美濃 問題提起〉

近江から美濃へ～古代の東山道と遺跡～

滋賀民俗学会理事 兼康 保明

東山道ルートに沿う遺跡の特質

～弥生から古墳時代を中心として～

池田町教育委員会 横幕 大祐

岐阜県教育委員会 成瀬 正勝

文献資料から見た東山道～美濃を中心に～

岐阜大学助教授 早川 万年

信濃の古道と古墳 飯田市教育委員会 小林 正春

〈まとめの討論〉

司会／八賀晋(三重大学名誉教授)

助言／伊藤秋男(南山大学教授)

福岡猛志(日本福祉大学教授)

パネラー／兼康保明・横幕大祐・成瀬正勝・

早川万年・小林正春

■第二部 地域学～いくつかの視点～

〈地域学からの発言〉

〔京都学からの発言〕「山城学」との相違点を踏まえて

花園大学教授 山田 邦和

〔日本海学からの発言〕地域学の先駆的实践としての

「日本海文化シンポジウム」

富山市教育委員会 藤田富士夫

〔東海学からの発言〕「沙石集」の世界～東海学の立場から～

東京女子大学名誉教授 大隅 和雄

〔飛鳥学からの発言〕飛鳥学と東海

京都教育大学教授 和田 萃

〔関東学からの発言〕もう一つの古典文学史

成蹊大学教授 浅見 和彦

〔まとめとしての発言〕地域学と司馬遼太郎の

「街道をゆく」

考古学者 森 浩一

□誌上参加

家形石棺のひろがり～美濃・尾張地方の場合～

名古屋市見晴台考古資料館 服部 哲也

大型の方墳が造られた頃～美濃の事例～

可見市教育委員会 長瀬 治義

村・町・都市の考古学～沙石集からみた中世東海の風景～

同志社大学歴史資料館 鋤柄 俊夫

伊吹山南麓の遺跡と古道

春日井市教育委員会 大下 武

□巻末資料〈資料集巻末1～127頁〉

資料1 東海の古墳解説[4] 美濃編①

1 美濃・飛騨の地形概観

2 美濃の地域区分

3 岐阜県下の市町村合併

4 水系からみた美濃の古墳分布概観

5 西濃地域北部 ①揖斐郡谷汲村

②揖斐郡揖斐川町

③揖斐郡大野町

④揖斐郡池田町

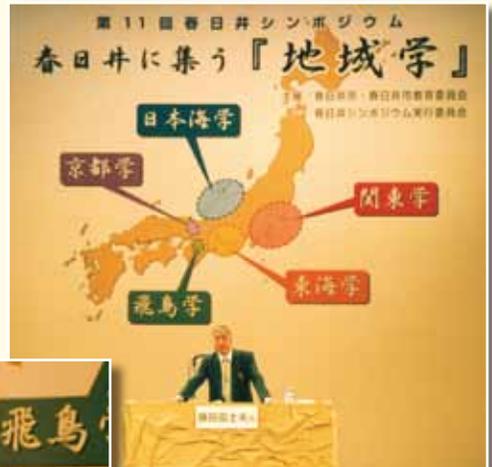
資料2 森浩一のえらぶ「東海学50の遺跡」

愛知県(22)・岐阜県(10)・三重県(10)・

静岡県(6)・長野県(2)

資料3 地域学〈日本海学・京都学・飛鳥学・

関東学・東海学・その他〉参考文献



▲地域学からの発言：藤田 富士夫氏



▲地域学からの発言：大隅 和雄氏

各地に芽生えた「地域学」。  
関東・東海・飛鳥・京都・日本  
海の5地域からその地域の  
特性について分析・考察が  
加えられました。

# 水と大地 ～日本そして東海の土木技術を検証する～

## ■第一部

### 〈基調発表〉

水辺のカミまつりと古墳 ～東海を含めて～

奈良県橿原考古学研究所附属博物館 今尾 文昭

築堤と道路(1) ～可見市柿田遺跡について～

(財)岐阜県教育文化財団文化財保護センター 小野木 学

築堤と道路(2) ～御嵩町顔戸南遺跡の波板状凹凸面について～

南山大学教授 伊藤 秋男

築堤と灌漑 ～室遺跡に関連して～

大阪府立弥生文化博物館 小山田宏一

環濠集落の系譜とアイデア

奈良県教育委員会 寺沢 薫

### 〈まとめの討論〉

司会／八賀晋 (三重大学名誉教授)

パネラー／今尾文昭・小野木学・伊藤秋男・

小山田宏一・寺沢薫

## ■第二部

### 〈講演〉

日本文学と川

成蹊大学教授 浅見 和彦

### 〈記念講演〉

東海の土木技術 ～治水・開拓・灌漑～

京都大学副学長 金田 章裕

### 〈講演〉

まつりと水 “飛鳥” 京都教育大学教授 和田 萃

日本人と水 ～自然との共生～

考古学者 森 浩一

## 〈シンポジウム〉

司会／福岡猛志 (日本福祉大学教授) 助言／森浩一

パネラー／寺沢薫・浅見和彦・金田章裕・和田萃・

八賀晋

### □誌上参加

日枝の泉 ～比叡山横川如法水～

滋賀民俗学会理事 兼康 保明

三重の祭祀遺跡 ～伊勢神宮への道～

三重県埋蔵文化財センター 穂積 裕昌

“水”に深くかかわる地域 ～美濃地域の特性～

春日井市教育委員会 大下 武

### □巻末資料〈資料集巻末1～186頁〉

資料1 森浩一のえらぶ「東海学50の遺跡」

～補遺編～

愛知県(4)・岐阜県(1)・三重県(1)

資料2 東海の古墳解説[5] 美濃編②

6 西濃地域南部 ①不破郡垂井町

②養老郡養老町

③海津郡南濃町

資料3 水にかかわる遺跡案内(水辺の祭祀と土木)

岡山県(1)・兵庫県(1)・奈良県(8)・

大阪府(4)・三重県(3)・愛知県(4)・

岐阜県(3)・群馬県(2)・滋賀県(4)

古代、日本人は水とどのようにかかわってきたのか。「水」にまつわる文化、まつり、土木技術について、最新の調査事例や文学、地理学などの分野から講演・討論が行われました。



▲記念講演：  
金田 章裕氏



講演：  
浅見 和彦氏▶



▲シンポジウム

# 第13回春日井シンポジウム 伝説に歴史を読む ～東海を中心にして～

平成17年11月12・13日

## ■第一部

### 〈基調発表〉

発掘された浦島伝説 ～謎に満ちた“芳蘭”の文字～  
長野県立歴史館 川崎 保

### 〈基調講演〉

孫娘に伝わった道場法師の怪力  
同志社女子大学教授 寺川真知夫  
沙門道行と知多法海寺

日本福祉大学教授 福岡 猛志  
役行者の実像 京都教育大学教授 和田 萃  
飛驒の英雄両面宿禰 ～飛驒の五世紀をみる～  
三重大学名誉教授 八賀 晋

## ■第二部

### 〈基調講演〉

近江の小野氏伝説 ～小野妹子・小野小町など～  
滋賀民俗学会理事 兼康 保明

### 〈講演〉

小町伝説はこうして作られた  
新潟大学大学院教授 錦 仁

伝説と歴史と文学のはざままで ～富士川の対戦の真相～  
東京工業大学名誉教授 福田 豊彦

伝説と考古学 ～神功皇后をめぐる～  
考古学者 森 浩一  
\*当日は、健康上の都合により欠席。資料集寄稿のみ。

### 〈シンポジウム〉 伝説に歴史を読む

司会／福岡猛志  
パネラー／川崎保・寺川真知夫・和田萃・八賀晋・  
兼康保明・錦仁・福田豊彦

### □誌上参加

小野道風の伝説 春日井市道風記念館 落合 哲  
尾張の安倍清明伝説 春日井市教育委員会 大下 武

### □巻末資料 〈資料集巻末1～121頁〉

資料1 伝承にかかわる遺跡案内  
《鬼・清明・丹後の伝承》  
資料2 伝承にかかわる参考文献  
《鬼・安倍清明》

記紀をはじめ、説話集やお伽草子に残る伝説はいかにして生まれたのか。その成立の事情と時代背景を歴史学、国文学から分析し、伝説の裏側にある歴史の実像について検討されました。



▲基調講演：  
八賀 晋氏



▲講演：福田 豊彦氏



▲講演：錦 仁氏

## 小野道風と書のまち春日井

平安時代の三跡の一人、小野道風は、それまでの中国の書の模倣ではなく新しい日本風の書、「和様の書」を創造した人物で、春日井市で生まれたといわれています。南北朝時代に記されたとされる書道の秘伝書『麒麟抄』を最古とし、『塩尻』（天野信景著）など、いくつかの資料にみられます。文化12年(1815)に尾張藩の学者、秦鼎の撰文によって松河戸町に建てられた小野朝臣遺跡碑によると、18世紀末には、この土地で道風生誕が信じられ、顕彰活動が行われていたことが知られます。

春日井市では、この文化的伝統を大切に、「書のまち春日井」をキャッチフレーズに、書の美術館である道風記念館における小野道風に関する資料・書作品の展示や全国公募の書道展である道風展の開催、県下児童生徒席上揮毫大会の開催など、書道文化の振興に力を入れています。

地域に伝わる伝説を単に語り伝えるのではなく、現代に活かした新しい文化の創造・発信を行っています。



### ◆道風記念館

全国でも数少ない書専門の美術館で、奈良・平安・鎌倉時代の古筆から近現代書作品まで、約 2,500 点の書作品を所蔵しています。平安・鎌倉時代の古筆や、古代中国の書の拓本、近現代の書作品など、様々な書を紹介する展覧会を数多く開催しています。



- 所在地 愛知県春日井市松河戸町 946 番地 2
- 利用時間 午前 9 時から午後 4 時 30 分まで
- 休館日 毎週月曜日（祝日の場合は開館し、翌日休館）・年末年始（12/29～1/3）  
展示替え期間
- 観覧料 館蔵品展・企画展 一般 100 円、大学・高校生 50 円、中学生以下 無料  
特別展 一般 500 円、大学・高校生 300 円、中学生以下 無料
- 問い合わせ 春日井市道風記念館

〒486-0932 愛知県春日井市松河戸町 946 番地 2 TEL 0568-82-6110

# 第14回春日井シンポジウム 海人たちの世界 ～東海の海の役割～

平成18年11月11・12日

## ■第一部

### 〈基調講演〉

東海の河川の水人たち

滋賀民俗学会理事 兼康 保明

東海最大の西貝塚の謎 ～牟呂貝塚群形成の背景～

豊橋市美術博物館 岩瀬 彰利

伊勢・志摩・熊野と海人の考古学

三重県埋蔵文化財センター 穂積 裕昌

### 〈講演〉

日本文化にとっての海人

考古学者 森 浩一

## ■第二部

### 〈講演〉

尾張海人の実像を甚目氏に探る

三重大学名誉教授 八賀 晋

文献から推理する知多・三河湾の海人の実像

日本福祉大学教授 福岡 猛志

熊野の捕鯨と志摩の海女

鳥羽市教育委員会 野村 史隆

大王と海民

京都教育大学教授 和田 萃

## 〈シンポジウム〉

司会 / 福岡猛志

パネラー / 兼康保明・岩瀬彰利・穂積裕昌・  
八賀晋・野村史隆・和田萃

## □誌上参加

三河湾三島(佐久島・日間賀島・篠島)の古墳

南知多町役場総務部 森 崇史

知多の製塩遺跡 東海市立平洲記念館 立松 彰

尾張氏の変身 ～海人から開拓者へ～

春日井市教育委員会 大下 武

## □巻末資料 〈資料集巻末1～129頁〉

資料1 東海の古墳解説[補遺]海を望む古墳  
～三河沿岸部と島嶼の古墳～

資料2 『日本書紀』にみえる海人関係記事

資料3 《海人》にかかわる参考文献



講演: 森 浩一氏▶



▲基調講演: 兼康 保明氏



▲シンポジウム

歴史に台頭する海人(かいじん)。遺跡や文献、現代まで続く捕鯨や漁などから、東海の海の役割と海を舞台に活躍する海人の実像について講演・討論が行われました。

# 日本の食文化に歴史を読む ～東海の食の特色を知る～

## ■第一部

### 〈講演〉

- 粟を食す国 ～飛騨の食文化にみる大陸文化～  
三重大学名誉教授 八賀 晋
- 鯨を食べる  
鳥羽市教育委員会 野村 史隆
- 木の実食 ～乾燥備蓄と“あく抜き”の歴史～  
岩手大学非常勤講師 名久井文明
- すし文化と東海  
名古屋経済大学短期大学部准教授 日比野光敏

## ■第二部

### 〈講演〉

- 紀行文にあらわれた食  
京都教育大学名誉教授 和田 萃
- 山の食文化 ～その複合力をさぐる～  
近畿大学名誉教授 野本 寛一
- 山・野・里・川・海の食の見直し  
～日本文化の深層をさぐる～  
考古学者 森 浩一

### 〈記念講演〉

- 東海の食の文化の特徴  
東京農業大学教授 小泉 武夫

### 〈座談会〉食を見直す

- 座長／森浩一
- 参加／和田萃・野本寛一・小泉武夫

### □誌上参加

- 伝えておきたい岐阜県山間部の食  
～西美濃を中心に～ 日本民具学会 脇田 雅彦

### サメを捕った人々

- 知多古文化研究会代表 山下 勝年

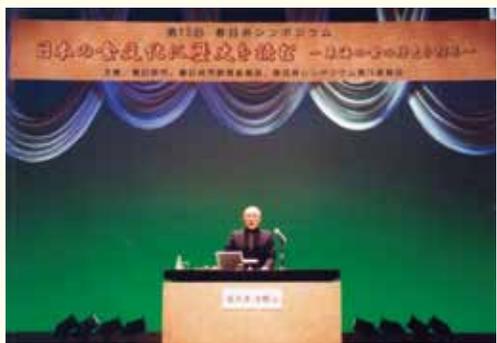
### 祭りのさばずし

- 名古屋聖霊短期大学名誉教授 三上 稲子
- 尾張藩士朝日文左衛門の食卓 ～『鸚鵡籠中記』から～  
春日井市教育委員会 大下 武

### □巻末資料〈資料集巻末1～113頁〉

- 資料1 東海の「食」と「遺跡」めぐり
- 資料2 《食》にかかわる参考文献

人の生命の根幹をなす「食」。各地域の特色ある食文化や日記・紀行文にみられる食、遺跡から出土する食など様々な立場から東海地域の食について講演、座談会が行われました。



◀講演：  
名久井 文明氏



▲座談会「食を見直す」



▲記念講演：小泉 武夫氏

# 第16回春日井シンポジウム 東海を足元から探る ～東海・東山学のおさらい～

平成20年11月8・9日

## ■第一部 東海の生活と信仰

### 〈講演〉

美濃・飛騨のサエノカミ信仰

日本民具学会 脇田 雅彦

古代美濃・飛騨の生活と信仰

岐阜大学教授 早川 万年

考古学から探る伊勢神宮の成立と発展

三重県教育委員会 穂積 裕昌

津島神社の信仰

日本福祉大学教授 福岡 猛志

### 〈まとめの討論〉

司会／福岡猛志

助言／八賀晋

パネラー／脇田雅彦・早川万年・穂積裕昌

## ■第二部 東海・東山学を旅する

### 〈講演〉

弥生のなかの〈東海学〉を考える

奈良県立橿原考古学研究所 寺沢 薫

本居宣長と東海 京都教育大学名誉教授 和田 萃

東海とその周辺域のアマ文化

～環境対応と民俗展開をさぐる～

近畿大学名誉教授 野本 寛一

東海学のおさらい ～歴史探検家松浦武四郎のこと、ほか～

考古学者 森 浩一

## 〈座談会〉

座長／森浩一

参加／寺沢薫・和田萃・野本寛一

## □誌上参加

天武天皇と白鳳寺院 ～美濃の川原寺式軒瓦を考える～

三重大学名誉教授 八賀 晋

南知多の捕鯨 知多古文化研究会代表 山下 勝年

朝日文左衛門の伊勢参り ～『鸚鵡籠中記』から～

春日井市教育委員会 大下 武

## □巻末資料 〈資料集巻末1～58頁〉

資料1 牛頭天王にかかわる神社

1 天王信仰のルーツを追って

2 尾張の津島神社

資料2 津島系の神社分布



▲座談会



▲講演：早川 万年氏



▲講演：野本 寛一氏

「信仰」をキーワードに「海の文化」「山の文化」の視点、あるいは、様々な時代に息づいた人物や他地域との比較によって浮かび上がる東海地域の特色について再検討されました。

# 第17回春日井シンポジウム 東海を足元から探るⅡ ～地域の歴史とまつり～

平成21年11月21・22日

## ■第一部 東海のまつり

### 〈講演〉

二木島祭と宝塚古墳船形埴輪  
三重県教育委員会 穂積 裕昌  
津島の天王祭り 民俗芸能研究家 鬼頭 秀明  
名古屋および周辺のお鋤祭り  
～六〇年に一度の流行に迫る～  
名古屋市博物館 武藤 真

### 〈まとめの討論〉

司会／兼康保明(滋賀民俗学会理事) 助言／森浩一  
パネラー／穂積裕昌・鬼頭秀明・武藤真

## ■第二部 東海学の諸問題

### 〈講演〉

東海から東国への道 ～青銅器文化の伝播ルートなど～  
長野県埋蔵文化財センター 川崎 保  
東海の万葉歌 日本福祉大学名誉教授 福岡 猛志

東海の国・郡名の起源をさぐる

京都教育大学名誉教授 和田 萃  
東海学の諸問題 ～狗奴国東海説は成立の余地なし～  
考古学者 森 浩一

### 〈座談会〉

座長／福岡猛志  
助言／森浩一  
参加／川崎保・和田萃・八賀晋

### □誌上参加

東海の赤彩土器 ～顔料の採取と儀礼の確立～  
三重大学名誉教授 八賀 晋  
芭蕉の弟子たち ～『鸚鵡籠中記』から～  
春日井市教育委員会 大下 武

### □巻末資料〈資料集巻末1～57頁〉

芭蕉と門人たちの句碑  
芭蕉の旅の「行路図とルート解説」(付図1～6)



▲座談会

前半は「まつり」をテーマに、後半は東海地域の諸問題や東海の地域史を検討するうえで重要な課題について考古学、文献、民俗などの立場から講演・討論が行われました。



▲講演: 森 浩一氏

# 第18回春日井シンポジウム 『万葉集』に歴史を読む

平成22年10月2・3日

## ■第一部 地域からの発言

〈講演〉

越中時代の大神家持の歌とその環境

敬和学園大学非常勤講師 藤田 富士夫

柿本人麻呂・高市黒人と東海

フェリス学院大学名誉教授 森 朝男

万葉歌に歴史を探る 東海の場合②

～持統上皇の三河行幸は遠江国に及んだか～

日本福祉大学名誉教授 福岡 猛志

## ■第二部 万葉集の諸問題

〈講演〉

飛鳥の万葉歌 京都教育大学名誉教授 和田 萃

万葉歌と民俗～訪れ神と地霊～

近畿大学名誉教授 野本 寛一

『万葉集』の食 東京農業大学名誉教授 小泉 武夫

万葉集に歴史を読む～足馴しのために～

考古学者 森 浩一

〈まとめの討論〉

司会／鋤柄俊夫(同志社大学教授)

助言／森浩一

パネラー／藤田富士夫・森朝男・福岡猛志・

和田萃・野本寛一・小泉武夫・八賀晋

□誌上参加

美濃・飛驒の万葉の歌～歌われた故地の姿～

三重大学名誉教授 八賀 晋

□特別寄稿

近江の万葉歌～淡海の南と北～

滋賀民俗学会理事 兼康 保明

信濃の万葉歌

長野県埋蔵文化財センター 川崎 保

伊勢・志摩の万葉歌

三重県埋蔵文化財センター 穂積 裕昌

「八十一隣の宮」の万葉歌

春日井市教育委員会 大下 武

□巻末資料〈資料集巻末1～36頁〉

愛知の万葉歌碑めぐり

▼講演: 森 朝男氏



▲まとめの討論

万葉歌に詠われた歴史の姿。歌から読みとれる古代の日本。歴史、文学、民俗、食など様々な角度から「万葉集」について検証されました。



▲講演: 和田 萃氏

# 第19回春日井シンポジウム この国の歴史と形 ～東海学を視座にすえて～

平成23年10月8・9日

## ■第一部 神仏習合

### 〈講演〉

氣比神宮と織田の劔神社

越前町教育委員会 堀 大介

伊勢神宮と仏教浸透

～伊勢大神宮寺から経塚造営～

三重県教育委員会 穂積 裕昌

善光寺と諏訪信仰

遼寧師範大学客座教授 川崎 保

熱田社と神仏習合

日本福祉大学名誉教授 福岡 猛志

### 〈まとめの討論〉

司会／福岡猛志

助言／森浩一

パネラー／堀大介・穂積裕昌・川崎保

## ■第二部 古代日本人と渡来人

### 〈講演〉

日本人はどのように形成されたか ～人類学から～

土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアム名誉館長 松下 孝幸

渡来人の役割と日本文化 ～東海を含む東日本～

茨城キリスト教大学名誉教授 志田 諄一

\*当日は、健康上の都合により欠席。資料集寄稿のみ。

▼講演：福岡 猛志氏



▲まとめの討論

## ■第三部 日本の地域文化と食ほか

### 〈講演〉

山・森・里の資源利用と文化

近畿大学名誉教授 野本 寛一

海(川と湖)と島の資源利用と文化(海草・クジラも)

東京農業大学名誉教授 小泉 武夫

この国の歴史と形 ～東海学を視座にいて～

考古学者 森 浩一

### 〈まとめの討論〉

司会／森浩一・兼康保明 (滋賀民俗学会理事)

パネラー／福岡猛志・松下孝幸・野本寛一・

小泉武夫

### □誌上参加

熱田神宮と神宮寺 ～『鸚鵡籠中記』を中心に～

春日井市教育委員会 大下 武

シンポジウムの集大成として、19回、20回は、「この国の歴史と形」をテーマに、明治以前の神仏習合がこの国の歴史の根幹、日本文化の本質を探るうえで重要であるとして2回にわたり開催しました。また、渡来文化、食、文字の受容についても多角的視点から講演、シンポジウムが行われました。



▲参加者と会場内の様子

# この国の歴史と形 ～東海学を視座にすえてII～

## ■第一部 神と仏の共存と習合 ～日本文化の本質をさぐる～

### 〈講演〉

- 「多度神宮寺伽藍縁起」にみる神と仏  
三重県埋蔵文化財センター 穂積 裕昌
- 延暦寺と日吉大社 ～神仏習合時代の様相～  
考古学者 兼康 保明
- 考古学的に見た春日大社の神仏習合  
春日大社権禰宜 中野 和正
- 宗像大社の神仏習合 ～平安時代を中心として～  
宗像大社文化財管理事務局学芸員 重住真貴子
- 真言僧から見た神仏習合  
奈良芸術短期大学教授 前園実知雄

## ■第二部 文字の受容と創造 ～古代からの日本人の識字率～

### 〈講演〉

- 「禾」(アワ)の字を書いた墨書土器  
長野県教育委員会 川崎 保
- 古代東国の出土文字資料に見る仏教の普及  
仏教大学教授 門田 誠一
- 日記に見る日本人の特性  
～ドナルド・キーン氏の日記論に触発されて～  
フリージャーナリスト 深萱 真穂

## 日本古代における文字文化の展開

～「日本書紀」を中心として～

京都産業大学教授 森 博達  
この国の歴史と形への足馴らし  
考古学者 森 浩一

## 〈まとめの討論〉神仏習合思想とこの国の形

司会／福岡猛志(日本福祉大学名誉教授)  
助言／森浩一  
パネラー／川崎保・門田誠一・深萱真穂・森博達・  
前園実知雄・野本寛一(近畿大学名誉教授)

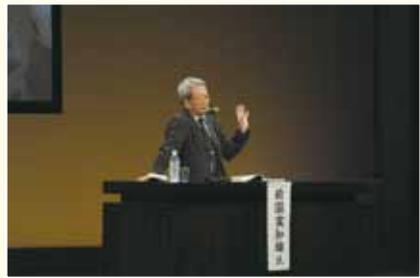
### □特別寄稿

子規と新しい俳句(付・略年譜)  
コロンビア大学名誉教授・日本文学研究者 ドナルド・キーン

### □巻末資料 〈資料集巻末1～18頁〉

資料1 神社紹介  
資料2 春日井シンポジウム総目次

▼講演:前園 実知雄氏



▲講演:森 博達氏



▲閉会時の一幕 伊藤太市長から森浩一氏へ花束の贈呈

## 数 字で見る 春日井シンポジウム

### 3万1千人 参加者数

20年にわたるシンポジウムの参加者数は、延べ3万1千人を超えました。テーマによって参加者数の増減はありますが、多い時で1,400人近い申し込みがあり、定員1,100人の市民会館が満席になるほどでした。



▲開演を待ちわびる多くの参加者

### 26人 皆勤賞

20年間欠かさずにシンポジウムに参加していただいた方が26人います。北海道から九州まで遠方からの参加者もあり、年に一度のシンポジウムを楽しみにされている方もいました。



◀参加申し込みはがき

### 92歳※ 最高齢

20回の参加者の中には、最高年齢92歳の方がいました。参加者は60～70代が中心ですが、中には17歳の女子高校生の姿もありました。

※申込書に年齢の記載があった中での最高齢

### 20色 資料集の色

毎回、異なった色を表紙に使用した資料集。シンポジウムのレジメとして使用したほか、巻末資料として関連の遺跡、文献、史料などを掲載しており、当該テーマの参考資料としても活用できるものとなっています。また、シンポジウムの講演録をもとに内容をまとめた収録本も各出版社から発刊されています。



※資料集、収録本は、文化財課で販売しています。

[http://www.city.kasugai.lg.jp/bunka/bunkazai/b\\_shoseki.html](http://www.city.kasugai.lg.jp/bunka/bunkazai/b_shoseki.html)  
(一部完売のものがあります。収録本は一般書店でも購入できます。)

# 森浩一文庫の開設

平成22年10月2日、春日井市立中央公民館内に「森浩一文庫」が開設されました。「春日井シンポジウム」の企画立案に大きな役割を果たされてきた考古学者の森浩氏は、「地域学」重視の立場から「東海学」を提唱され、その確立の一助になればと、多数の蔵書を春日井市に寄贈されました。全国各地の発掘調査報告書をはじめ、森氏の幅広い研究を物語る考古学・歴史学・民俗学を中心とした書籍、その他博物館等の展示図録や考古学・古代史・各地の地域史を扱う雑誌など一般の図書館にはない貴重な資料が数多くあります。また、森氏と親交のあった作家の松本清張氏や司馬遼太郎氏の書簡などもあり、現在、約1万7千点の書籍、資料を所蔵しています。

オープン初日には開設式と記念講演が行われ、森氏は講演の中で「書物を軽視しがちな現代の風潮の中、こういうときに東海の一角に森文庫ができたのはうれしいし、意義がある」と述べられました。

市では、森氏の意向をくみ、一般の方々や学生、研究者など幅広い方々に、地域学、東海学研究の拠点として生きた資料を十分に活用していただけるよう努めてまいります。



▲記念式典



▲森浩一文庫入口



▲記念講演「俊人と書籍」



▲森浩一氏による看板の揮毫

# 市民協働に向けて・・・

市制50周年の平成5年に始まり20回を数えた春日井シンポジウム。多くの参加者と講師の方々に支えられ、「地域からの文化発信」を目指して20年にわたり実施してきました。この間には、「東海学」の提唱、森浩一文庫の開設など貴重な知的財産や地域の歴史・文化を見直す機会を得ることができました。また、市民にも文化行政に対する認識、理解が浸透し、春日井文化財ボランティアの会（平成20年発足）やNPO・各種団体など市民による文化財の保護、啓発や地域の歴史・文化を見つめなおす活動が広がり始めています。

「春日井シンポジウム」は行政が行うシンポジウムとしては20回で終了しましたが、今後、市民主導で「東海学シンポジウム」として新たな道を歩み始めます。シンポジウムの参加者の中にも自らが主体となって地域文化を盛り上げていこうと動き出している方もいます。市民とともに協働することで地域の歴史・文化、「東海学」をより深めていけるものと期待されます。



## 森浩一文庫の利用について

約1万7千点の蔵書を閲覧することができます。



- 所在地 春日井市柏原町1丁目97番地1 春日井市中央公民館北館 1階
- 利用時間 午前9時から午後4時30分まで
- 休館日 毎週月曜日（祝日の場合も休館）・年末年始（12/29～1/3）
- その他 蔵書の貸出は行っていません。閲覧のみとなります。  
複写サービス（1枚10円）を行っています。  
春日井市図書館のホームページから蔵書検索ができます。  
（<http://www.lib.city.kasugai.aichi.jp/index.asp>）
- 問い合わせ 春日井市教育委員会文化財課  
〒486-0913 春日井市柏原町1丁目97番地1  
TEL 0568-33-1113 FAX 0568-34-6484  
メール [bunkazai@city.kasugai.lg.jp](mailto:bunkazai@city.kasugai.lg.jp)

春日井シンポジウム20年の歩み

平成25年6月1日 発行

春日井市・春日井市教育委員会